三重大学教育学部研究紀要　第56巻　教育科学　(2005)　211－220頁

音楽科の鑑賞活動における『楽しいこと』・『楽しくないこと』

高　瀬　瑛　子

What Makes Appreciative Activities Pleasant or Unpleasant in Music Education?

Yoko TAKASE

要　旨

「音楽教科における鑑賞活動のあり方について」(平成15年度教育学部研究支援経費プロジェクト)の研究報告書にもとづいて、教師の調査結果の傾向から、鑑賞活動における「楽しいこと」・「楽しくないこと」の内容を検討した。その結果、児童・生徒の「楽しいこと」「楽しくないこと」は、ともに「興味・関心」が影響しており、「興味・関心」がもてない場合には「楽しくない」活動と受け止められる傾向がみられた。教師による「授業への工夫」のうち、「他の活動と関連」させた鑑賞活動は、「興味・関心」をもって活動する主体的な活動につなげることができるものである。その場合、自己評価、相互評価、教師による評価などが必要であるが、それらの評価方法については今後の検討が必要である。

1．はじめに

音楽科の時間数は削減されてきているが、音楽科の授業においても平成14年施行の学習指導要領より、「生きる力」の育成を基本とした方針によって、各学校で表現および鑑賞の学習活動を通して、さまざまな取り組みがなされている。そのうち、鑑賞活動は児童・生徒が受動的になりがちな活動と考えられる。また鑑賞は音楽活動の原点であるが、「評価基準、評価方法等の研究開発（報告）」[i]の評価基準の具体例をみても、一方の表現活動とくらべて、評価の難しさがうかがわれる。そこで、「音楽教科における鑑賞活動のあり方について」(平成15年度教育学部研究支援経費プロジェクト）をテーマとした研究で実態調査のためのアンケートを行った。この調査は三重県内の国公立学校を対象とし、地域分布を考慮して依頼した小学校38校、中学校25校、高等学校7校の教師72名、児童・生徒約2500名の協力を得て行われた。児童・生徒へのアンケート調査結果はすでに研究報告書[ii]で報告されている。

しかし、この報告書では教師側の指導目標・指導内容などについての調査結果は含まれていない。そこで本研究では研究報告書のⅡ.1.「児童・生徒が『楽しい』と感じること」およびⅡ.2.「児童・生徒が『楽しくない』と感じること」に絞って、分析を再考し、教師へのアンケート結果と比較してみることにした。特に「鑑賞の授業で工夫していること」と「音楽の授業で大切にしていること」の質問項目の記述内容を集約し、その傾向から、鑑賞活動で「楽しいこと・楽しくないこと」と扱われる内容および問題点を探り、これからの鑑賞活動の方向を検討することを目的とする。

2．鑑賞活動における児童・生徒の実態

ここでは平成15年に行った教育学部研究支援経費プロジェクトによる「音楽教科における鑑賞活動のあり方について」の研究報告書の分析結果を再考し、検討をする。

2.1　「児童・生徒が『楽しい』と感じること」について

児童、生徒が「鑑賞の授業でどんなことを楽しいと思うか」というアンケートの質問項目について、回答した割合は、年齢が上がるにつれて楽しいと思うことについて記述した児童、生徒が増えている。中学校、高等学校では50%以上の生徒が具体的に記述しており、鑑賞の授業に対して意識的、主体的に取り組んでいることの現われであると考えられる。

次に「楽しい」と思うことについて記述された具体的な内容を便宜上、①「音楽の要素」②「興味・関心」③「精神的なもの」④「授業の工夫」の4つの観点に分類した。各観点の細かな内容を表1に示す。「楽しい」と思うこととして記述された内容について、アンケート

表1　「楽しい」と思うこととして記述された内容の観点別分類

1. 音楽の要素	曲の感じや変化、音色、リズム、ハーモニー、楽器、曲の背景など
2. 興味・関心	いろいろな種類の曲、知っている曲、知らなかった曲、好きな曲、普段聴けない曲、感想文を書くなど
3. 精神的なもの	心が落ち着く、楽しくなる、和む、癒される、気分転換など
4. 授業の工夫	映像を伴うもの、実物の楽器、絵を描く、身体表現する、プロの演奏など

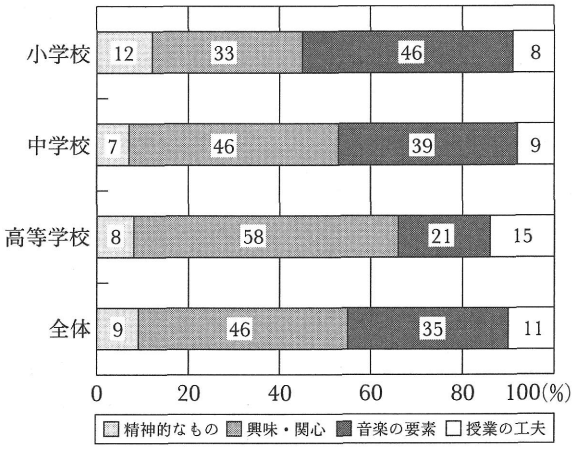

図1　「楽しい」と思うことの内容の観点別割合

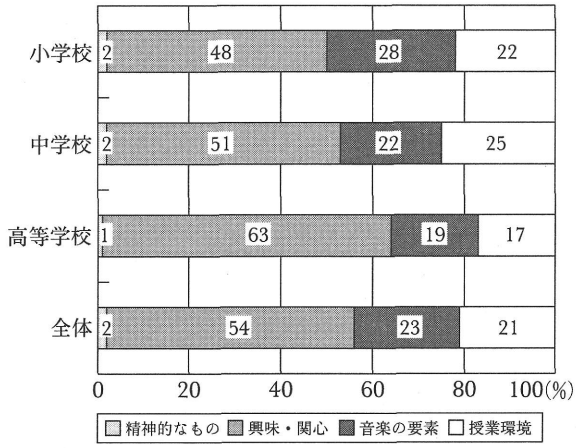

図2　「楽しくない」と思うことの内容の観点別割合

の集計結果を観点別にグラフ化したものが図1である。これをもとに観点別の特徴をみていくことにする。

①　音楽の要素

この観点で回答した児童、生徒は、小学校が46%と一番多く年齢が上がるにつれて減る傾向にあった。しかし、どの校種でも記述が詳しく多岐に渡っていて年齢が上がるほど音楽を広く、深く捉えようとしている姿がうかがわれた。このことは、指導者が目当てをはっきりと持って授業に取り組んでいることの成果であると考えられる。特に小学校では、「音当て、楽器当て、変わり目を探す」など的を絞って聴かせていることをうかがわせる回答が多数見られた。

②　興味・関心

年齢が上がるにつれてこの項目での回答は、増加の傾向がみられた。その内容はどの校種においても、「いろいろな曲」「知っている曲」「知らなかった曲」「好きな曲」などが共通している。また、感想を友だちと話し合う、感想文を書くことが楽しいという回答も少数であったが得られた。

③　精神的なもの

小学校で一番多く、年齢が上がるにつれて減少する傾向にある。内容についてもほぼ共通していた。ただ、小学校では、「みんなで仲良くきく」の回答に見られるように学級の子どもたちの安定した人間関係が必要であることをうかがわせる回答もあった。また、中学校の「授業の疲れがなくなる、心にゆとりができる」などの回答もみられた。

④　授業の工夫

この項目からは、多くの高等学校でLDやVTRなどの映像を取り入れていることがわかった。それにくらべて映像を取り入れている小学校5校、中学校は11校であった。また、「家では聴けない大音量で聴ける」などの設備に関する回答や「曲に合わせて、一緒に鼻歌を歌う」「踊ったり、体を動かしたりしながら聴く」などの回答もあり、「音楽は静かに聴く」という一般的な聴かせ方だけでなく、さまざまな工夫がされていることがわかった。

2.2　「児童・生徒が『楽しくない』と感じること」について

児童、生徒が「鑑賞の授業でどんなことをあまり楽しくないと思うか」というアンケートの質問項目について、回答した割合は、年齢が上がるにつれ、鑑賞の授業において楽しくないことがあると答えた生徒が多くなっている。小学校では、約40%が楽しくないことがあると答えているのに対し、中学校、高等学校では、半数以上が楽しくないことがあると答えている。

次に「楽しくない」思うことについて記述された具体的な内容は、2.1で「楽しい」と思うことについて分類したものと同様、便宜上、①「音楽の要素」②「興味・関心」③「精神的なもの」④「授業環境」の4つの観点に分類した。各観点の細かな内容を表2に示す。「楽しくない」と回答された内容についてアンケートの集計結果を観点別にグラフ化したものが図2であ

表2　「楽しくない」と思うこととして記述された内容の観点別分類

1. 音楽の要素	曲の速さ、曲の感じ（明るい、暗い、静か）、曲の長さ、雅楽、クラッシック、能など
2. 興味・関心	退屈になる、感想文を書くのが嫌い、知らない曲、興味のない曲を聴くなど
3. 精神的もの	すべて嫌い
4. 授業環境	クラッシック中心の授業、指導者の話、作曲者や曲について覚えなければならない、静かに聴きたいのに周囲がうるさい、長時間ビデオを観ていること、鑑賞以外の活動ができない、じっと座っていなければならない、時間が足りなくて曲の途中で早送りされる、ただ聴いているだけになっているなど

る。これをもとに、観点別に特徴をみていくことにする。

①　音楽の要素

今回のアンケートにおいては、長い曲ということが、どの校種においても多い回答であった。しかし、具体的な曲名を質問していないので、どのような曲が長いと感じる曲なのかということは、十分に把握できていない。

小学校では「長い曲」「暗い曲」「寂しい曲」といった回答が多かった。

中学校では「長い曲」「長い曲で同じフレーズが何度も出てくる曲」「遅いテンポの曲」「リズムが一定の曲」「郷土の音楽」「古い日本の音楽」「クラシック」「同じ音色ばかりで演奏される曲」などの回答がみられた。これらは概ね、「曲の構成」「音楽のジャンル」「演奏形態」に分けられる。

高等学校においても、ほぼ同様の回答であった。

②　興味・関心

どの校種とも、感想文を書くことが嫌いという回答が非常に多かった。

小学校では、約半数が、興味・関心に関することで楽しくないことがあると答えているが、具体的な内容は感想を書くことが嫌い、あるいは苦手というものが多数を占め、「退屈になる」とか、「眠たくなる」などの回答も多くみられた。中学校も小学校と同様に約半数が興味・関心に関することを鑑賞において楽しくない理由としてあげている。「眠たくなってしまう」「楽しくない」「感想文を書かなくてはならない」「聴いていてもよく分からない」「興味のない曲」や「嫌いな曲」「知らない曲」を聴くことなどが回答として得られた。

高等学校では、鑑賞で楽しくないことがあると答えた生徒のうち、約60%が興味・関心に関することを理由としてあげている。興味・関心では、眠たくなる、知らない曲や嫌いな曲を聴く、感想文を書かなくてはならないといった回答が得られた。

③　精神的なもの

この項目については全体平均で2%であるが、「鑑賞活動そのものが嫌い」であったり、鑑賞活動だけに限らず、「音楽そのものが嫌い」という回答が見られた。その理由については、記入を求めなかったので、なぜ嫌いなのかという具体的な理由ははっきりしない。

④　授業環境

この項目では、小学校・中学校では曲を聴いているときに、「周囲の友だちがうるさい」「先生の長い話を聞くことが嫌い」「ずっと座っている、聴いている時間が長く、歌唱活動や器楽活動に取り組めない、生演奏ではないCDやビデオで鑑賞することが嫌い」「感想の発表を求められる」「映像による資料がない」といった回答が得られた。

高等学校でも、「聴く時間が長い」「授業時間が短く、最後まで聴けない」「作曲者や演奏家について細かく学ぶこと」「周囲がうるさいこと」「指導者の教材の説明」といったことが回答として得られた。

2.3　児童・生徒が『楽しい』『楽しくない』と感じることについて

全校種の平均でみると、児童・生徒は鑑賞の授業で「どんなこと楽しいと思うか？」[iii]という質問に50%が楽しいと思う内容を記述する一方で、「どんなことをあまり楽しくないと思うか？」[iv]という質問にも53%が楽しくないと思う内容を記述している。このことから、児童・生徒は授業のそのときどきで「楽しいこと」「楽しくないこと」の両方を感じていると考えられる。また記述された内容から、鑑賞における「楽しさ」はその時その時の子ども一人ひとりの主観で変わりうるということが推察される。記述された「楽しいこと」「楽しくないこと」の内容を分類した「音楽の要素」「興味・関心」「精神的なもの」「授業の工夫」「授業環境」の観点のいずれについても、その傾向がみられよう。ある子どもは、「よく知っている曲」だから、「楽しい」と感じ、ある子どもは「知らない曲」を知ることを「楽しい」と感じている。ある子どもは「激しい感じが好き」であるのに対し、ある子どもは「明るいから好き」であったりする。「心が落ち着く」子もいれば、「眠たくなる」子もいる。いずれにせよ、「楽しい」「楽しくない」「好き」「嫌い」などさまざまに子

どもが感じたことは刺激や体験として、大切にされるべきものである。それらの刺激や体験は、どのようなことが「楽しさ」を感じさせてくれるのか、あるいはなぜ「楽しくなく」、なぜ「嫌い」と思うのかといったことを一人ひとりの子どもが自分自身や友だちに問いかけ、その答えを求める過程において、はじめて生かされるものであろうと考える。そうした体験がひいては音楽の不思議を知り、音楽を学ぶ「楽しさ」へとつながるものになるのではないだろうか。

3．教師へのアンケート調査の結果より

3．1　「鑑賞の授業のねらい」について

教師によるアンケートの集計結果は図3－1～3に示す（複数回答を含む）。「題材や教材の理解を深めるため」という回答が最も多く、「授業の雰囲気をよくするため」という回答は非常にわずかであった。また、「その他」の項目で記述された内容は小学校では「音楽への興味や関心を引き出すため」「広い意味での音楽を理解させるため」「"音楽"に触れさせたい」「美しい演奏やいろいろな楽器を聴く経験をしてほしいから」となっている。中学校では「その他」の項目の占める割合が全校種で一番高く（36%）、その内容は「一般的に有名な作曲家などの基本的な部分だけでも知ってもらうため」「感性・音楽性を高める為」「教材、題材によって、ねらいはちがうので一概に言えない」「優れた演奏や作品を鑑賞することで、そのすばらしさを感じ、自分達の表現活動の目標を持つ」など、教師がねらいについて、多様な考えで対応していることがうかがえる。高等学校では「創作した作品をお互い鑑賞し合って、より良い作品とするため」「テーマの部分を覚え、クラシックに親しみを持たすため」などであった。

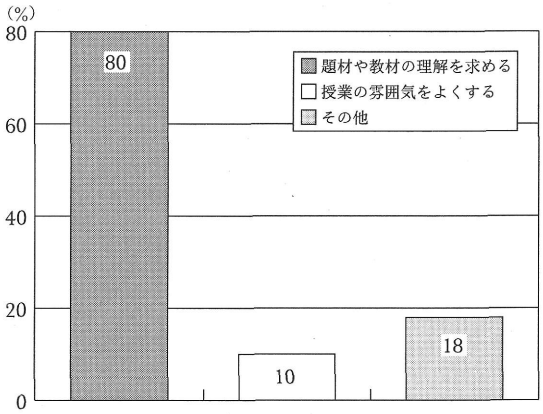

図3－1　鑑賞の授業のねらい: 小学校

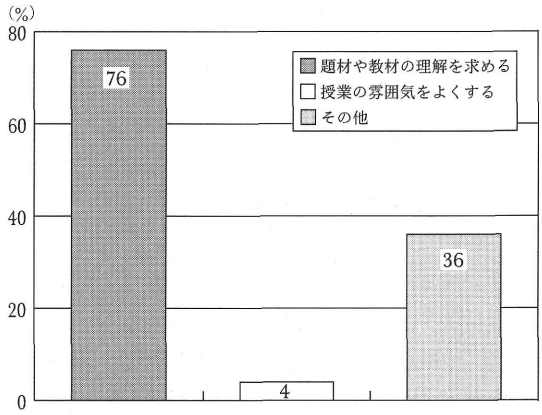

図3－2　鑑賞の授業のねらい: 中学校

3．2　「鑑賞をしている時の児童・生徒の様子」について

アンケートの集計結果は図4－1～3に示す（複数回答を含む）。小学校では「楽しそうに聴いている」（50%）が一番多く、「集中してよく聴いている」（43%）である。「あまり聴こうとしない」（8%）は全校種で一番割合が高い。

中学校では「集中してよく聴いている」（48%）、「楽しそうに聴いている」（24%）「その他」（52%）となっているが、「その他」は記述によるものである。「あまり聴こうとしない」生徒はいない。中学生が鑑賞活動においても、生徒によってさまざまな心境で臨んでいることがうかがえる。

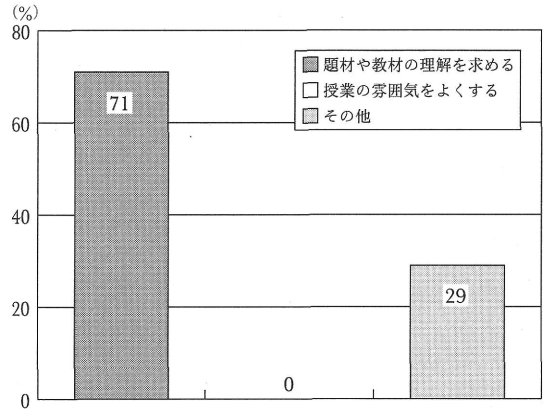

図3－3　鑑賞の授業のねらい: 高等学校

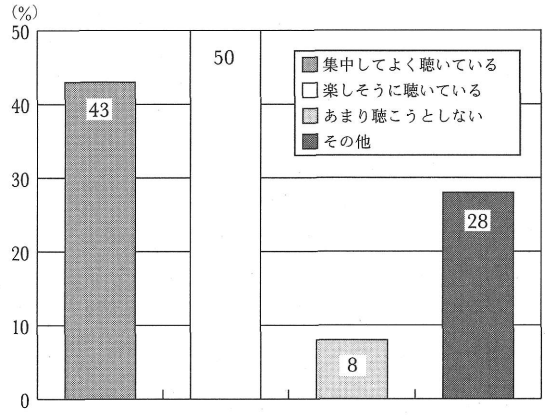

図4－1　鑑賞をしている時の児童の様子: 小学校

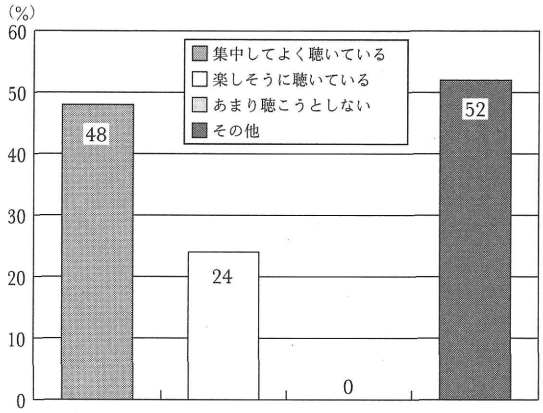

図 4－2　鑑賞をしている時の生徒の様子: 中学校

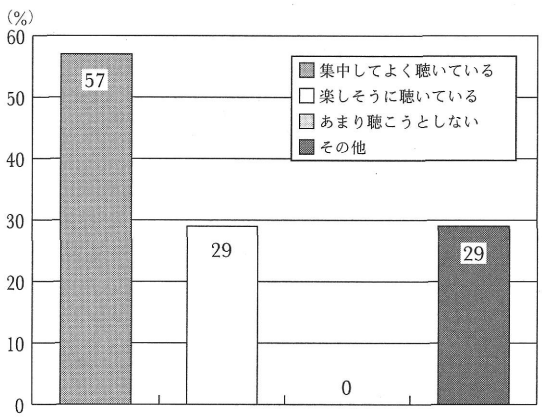

図 4－3　鑑賞をしている時の生徒の様子: 高等学校

高等学校では選択して受けている授業ということもあると思われるが、「集中してよく聴いている」(57%) 割合が高かった。

「その他の項目」の内容についてあげてみると、小学校では「集中して聴いている子もいるが大半は息抜きの時のようである」「教材によって違う」「曲の種類にもよる、ゆったりした曲・長い曲は聴こうとしない」「児童によって違う、映像がないと集中できない者もいる」、中学校では「クラスによっては集中できない生徒もいる」「他に迷惑をかけずには聴ける」「クラスや内容によって様子はかなり違うが、楽しく聴けるものを選んでいる」「内容によって、集中して聴くことをねらいにしたり、楽しく聴くことをねらいにしたりするので、一概に言えない」、高等学校では「生徒によって、聴く生徒と聴かない生徒の差が大きい」となっている。

3.3　鑑賞の授業で工夫していること

「鑑賞の授業で工夫していること」として、記述された内容を便宜上、いくつかの項目に分類した。図 5－1～3 に示すように分類項目については、できるだけ記載された言葉を生かすようにしたため、校種で異なっている。なお、この項目も複数回答されている。

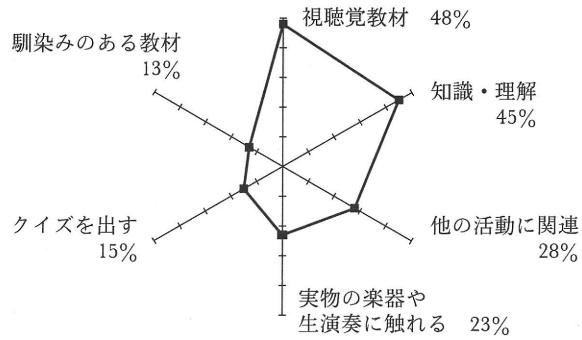

図 5－1　鑑賞の授業で工夫していること: 小学校

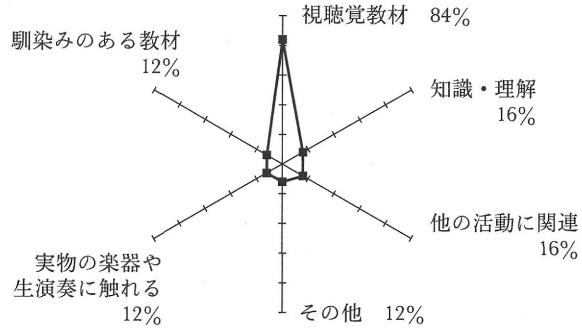

図 5－2　鑑賞の授業で工夫していること: 中学校

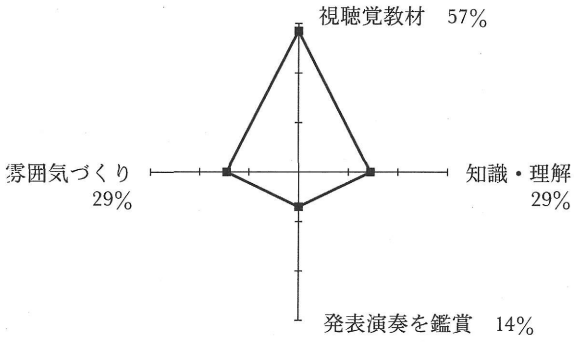

図 5－3　鑑賞の授業で工夫していること: 高等学校

小学校では「視聴覚教材」(48%) や「知識・理解」(45%)への工夫が多く、続いて「他の活動への関連」(28%)「実物の楽器や生演奏に触れる」(23%) が多かった。「馴染みのある教材」(13%) は全体で占める割合は少なかったが、「視聴覚教材」に含まれる場合もあると考えられる。

中学校では小学校に比べて、「視聴覚教材」(84%) の工夫が圧倒的に多く、「知識・理解」「他の活動へ関連」(各 16%)、「その他」「実物の楽器や生演奏に触れる」「馴染みのある教材」(各 12%) であった。中学校になると音楽の時間数は非常に少なくなるが、そ

のなかで鑑賞の授業は「視聴覚教材」への工夫がされていることがわかる。教師のねらいで、「一般的に有名な作曲家などの基本的な部分だけでも知ってもらうため」「優れた演奏や作品を鑑賞することで、そのすばらしさを感じ、自分達の表現活動の目標を持つ」などの記述回答がみられたが、子どもの成長にしたがって、鑑賞への理解や表現活動の幅が広げられている。「その他」の内容は「短く区切って、聴かせる」「退屈させないように活動の切り替えをテンポよくすすめる」「『教える』のではなく、『感じ取る』ことができる」などである。高等学校でも同様に「視聴覚教材」(57%) が多かった。また全校種で、「聴覚のみによる鑑賞」と両方実施し、目標に集中して鑑賞させる工夫がうかがえる回答もみられた。

3.4 音楽の授業で大切にしていること

「音楽の授業で大切していること」として記述された内容についても便宜上、いくつかの項目に分類した。図6−1〜3に示すように分類項目については、できるだけ記載された言葉を生かすようにしたため、校種で異なっている。この項目についても、複数回答されている。

小学校では「楽しさ」(43%)「仲間づくり」「表現活動」(各33%)「興味・関心」(20%)「感性・心の豊かさ」(18%)「知識・理解」(15%)「意欲・達成感」(15%) の順であった。30%以上の割合を占めた「楽しさ」「仲間づくり」「表現活動」の項目は、小学校の指導目標の特徴をよく示している。

中学校では「表現活動」(32%)「興味・関心」(28%)「感性・心の豊かさ」(16%)「楽しさ」「仲間づくり」「意欲・達成感」「主体的活動」「知識・理解」(12%)「マナー」(8%) の順であったが、これら9項目は「表現活動」「興味・関心」を除くと8%〜12%であるが、学校による違いや生徒の様子に合わせて、教師が工夫してさまざまな取り組みをしていることがうかがえる。

高等学校では「仲間づくり・信頼」(57%)「楽しさ」「知識・理解」「表現活動」(各29%) となっている。音楽を選択した生徒を対象とした授業であるが、やはり音楽の活動では「仲間づくり・信頼」が大切であることがわかる。

3.5 教師のねがいと児童・生徒の活動

「児童・生徒が『楽しい』と感じること」と「児童・生徒が『楽しくない』と感じること」について、教師のアンケート調査の質問項目で対応しているのは「鑑賞をしている時の児童・生徒の様子」「鑑賞の授業で工夫していること」「音楽の授業で大切にしていること」などである。

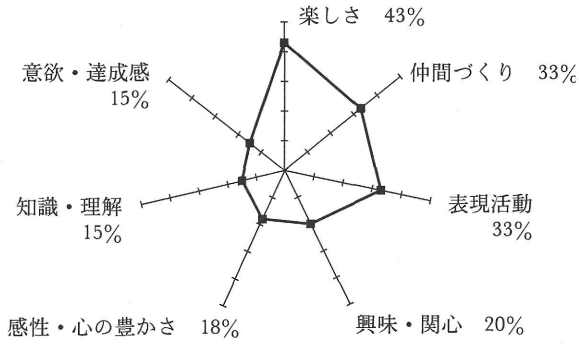

図6−1 音楽の授業で大切にしていること: 小学校

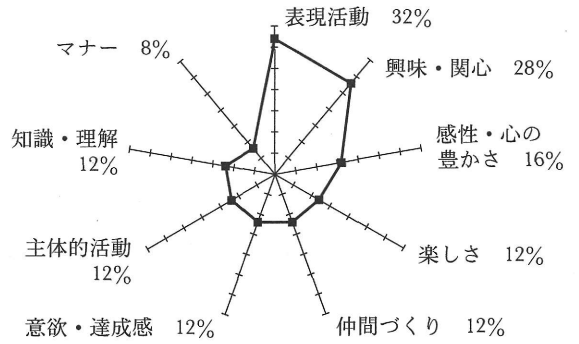

図6−2 音楽の授業で大切にしていること: 中学校

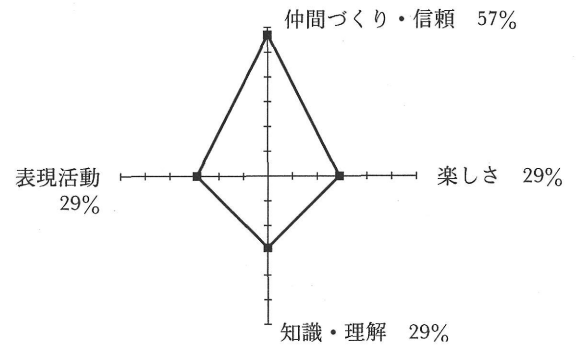

図6−3 音楽の授業で大切にしていること: 高等学校

まず、小学校の教師が「音楽の授業で大切にしていること」は、「楽しさ」(43%) の割合が高く、「仲間づくり」「表現活動」(各33%) の順であった。「鑑賞をしている時の児童・生徒の様子」(教師の回答) について、小学校では「楽しそうに聴いている」(50%)「集中してよく聴いている」(43%) の割合が高く、教師のねがいは達成されていると思われる。また教師が「鑑賞の授業で工夫していること」では、「視聴覚教材」(48%)「知識・理解」(45%)「他の活動に関連」(28%) の割合が高かった。児童の回答では「楽しいと思うこと」について、「音楽の要素」(46%)「興味・関心」(33%) を合わせると79%の割

合が得られている。「音楽の要素」は「視聴覚教材」「知識・理解」に対応する項目と考えられるので、教師のねがいが児童の活動で生かされていると思われる。しかし、児童の回答で「楽しくないと思うこと」についても「興味・関心」(48%)の割合が高く、「音楽の要素」(28%)と合わせると76%の割合である。そのときによっては子どもが前向きに取り組めない活動があることも考えられる。

中学校の教師が「音楽の授業で大切にしていること」は「表現活動」(32%)「興味・関心」(28%)の順で割合が高い。「鑑賞をしている時の児童・生徒の様子」(教師の回答)は、「集中して聴いている」(48%)「楽しそうに聴いている」(24%)を合わせると72%である。生徒が表現活動などへの目的意識をもって、鑑賞していることが考えられる。教師が「鑑賞の授業で工夫していること」は、「視聴覚教材」(84%)の割合が非常に高かった。生徒の回答では「楽しいと思うこと」について、「興味・関心」(46%)「音楽の要素」(39%)の割合が高く、これらは「視聴覚教材」に対応すると考えられる。これについては、教師の「視聴覚教材」への工夫が十分に生かされているためと思われる。しかし、「楽しくないと思うこと」についても「興味・関心」(51%)の割合が高く、ついで「授業環境」(25%)があげられるので、「授業環境」も含めて、小学校と同様に生徒一人ひとりのそのときの気持ちの有り様で、取り組む活動に意欲的になれない場合もあるように思われる。

高等学校の教師が「音楽の授業で大切にしていること」は「仲間づくり・信頼」(57%)で、「楽しさ」「知識・理解」「表現活動」(各29%)となっている。高等学校では音楽を選択した生徒ということもあり、「鑑賞をしている時の児童・生徒の様子」(教師の回答)は「集中して聴いている」(57%)「楽しそうに聴いている」(29%)を合わせると86%である。また「鑑賞の授業で工夫していること」は「視聴覚教材」(57%)「知識・理解」「雰囲気づくり」(各29%)であった。生徒の回答では「楽しいと思うこと」について、他の校種にくらべて「興味・関心」(58%)の割合が高い。教師の「視聴覚教材」「知識・理解」あるいは「雰囲気づくり」への工夫により、音楽に興味をもって、主体的に学ぼうとする生徒の姿勢がみられる。一方で、高等学校では「楽しくないと思うこと」についても「興味・関心」(63%)の割合が全校種の中で一番高く、自分の価値観や好みに合わないものについての取り組みはむずかしいように見える。

これらの結果から全校種について「興味・関心」のないものを鑑賞することにむずかしさがあることがわかる。また、児童・生徒へのアンケートで「音楽の授業の中で曲を聴くことは好きですか？」[v]という質問で、全体では「好き」(45%)「ふつう」(46%)「あまり好きでない」(9%)という割合が示されたが、「ふつう」=「好き」というよりは、「ふつう」=「興味がない」と考えられるとすれば、その子どもたちへの働きかけも必要である。

教師がそれらについて、さまざまな工夫をしていることは3.3や3.4で示したとおりである。今回の児童・生徒および教師へのアンケート調査の集約から、各学校や教員による鑑賞活動への熱心な取り組みや工夫が浮き彫りにされた。それゆえに、児童・生徒にとって好ましく思えないことを「『興味・関心』のないもの」「楽しくないこと」として終わらせてはならないと思う。「興味・関心」がもてないときには受動的な活動となりがちな鑑賞活動であるが、児童・生徒自身が未知のとびらを拓く喜びを感じ、「自ら学ぶ力」を育む主体的な活動という観点から、その手がかりを求めてさらに検討を進める。

3.6 児童・生徒が主体となる鑑賞活動への手がかり

音楽を鑑賞するとき、興味・関心があれば「楽しいこと」(わかること・わかりたいこと)[vi]として集中して聴くことができる。「鑑賞の授業で工夫していること」の記述内容から、教師は子どもたちが興味・関心を持って音楽を聴取する手がかりとして、第1にさまざまな予備知識をもたせるように指導していることがうかがえる。それらは特に視聴覚教材や知識・理解についていえよう。第2には予備知識を得させた上で、演奏家による生演奏を取り入れている学校もかなりみられた。第3に主体的な活動へと直接つながる「他の活動に関連」(小・中学校)の内容に注目したい。他の活動に関連させることで、子どもの得意な活動をより生かすことができ、それが「興味・関心」をもつきっかけになることも期待できよう。記述内容から、「聴く前のイメージを絵で描いて発表する」(わかりたいこと)「感想文の発表」(わかったこと)「作曲家や曲の物語などを調べる」(わかったこと)「鑑賞した曲のメロディーを歌ったり、リコーダーなどで演奏する」(わかったこと+友だちにわかってほしいこと)「リズムを手で鳴らす」(わかったこと+友だちにわかってほしいこと)「指揮をしながら聴く」「曲に合わせて身体表現をする」などがみられた。ここには「感想文の発表」が入っているが、「楽しくないこと」(「興味・関心」)の回答で圧倒的に多かったのが、「感想文を書くこと」であった。その理由は、教師がそれを評価の対象とするということがあるためか、感想を表現することにためらいもあるようである。しかし、少数では

あるが、前に示したように「感想を友だちと話し合うこと」「感想を書くこと」を楽しいと感じている子どももいる。感想は書くことで終わるのではなく、書くことから始まる活動でもある。鑑賞の感想に限らず、他の音楽活動においても「わからないこと」「わかりたいこと」「わかったこと」「わかってほしいこと」といった享受に関することがらを一人ひとりの子ども自身が、学んでいる記録を通して振り返り、「意欲・達成感」を実感しながら、「学ぶ楽しさ」につなげていく必要があろう。子どもたち一人ひとりが活動するステージを記録として見つめることで、鑑賞活動を軸に「他の活動に関連」した内容はさまざまに展開できるものと考えられる。

4．まとめ

音楽は感性の言葉と捉えられるが、人が言語を獲得し、言葉とともに成長していく過程と同様に鑑賞活動を表現活動と切り離して考えることはできない。鑑賞活動を主体的な活動として「他の活動に関連」させた音楽学習のあり方を探るとき、子ども自身の課題となる目標を達成したいという気持ちや意欲が求められる。そのためには自己評価、相互評価、教師による評価などをきっかけとした励みや指導が欠かせないものである。子どもや教師がどのように適正に「自ら学ぶ力」を評価し、どのような方法で一人ひとりの生き生きとした活動を支援できるかを探ることが、これからの課題である。

謝　辞

本研究は「音楽教科における鑑賞活動のあり方について」（平成15年度教育学部研究支援経費プロジェクト）のテーマで行われた実態調査に基づいたものである。共同研究者の先生方に感謝するとともに、この研究調査に協力していただいた三重県下の先生方、児童・生徒の方々に感謝の意を表します。

注

i　川池　聰（2003）．小学校・中学校　新しい音楽科の指導と評価．教育芸術社．

ii　兼重直文・高瀬瑛子・奥山直子・八木早苗・池山直子（2004）．「音楽教科における鑑賞活動のあり方について」（平成15年度教育学部研究支援経費プロジェクト）研究報告書．

iii　前掲書　p.2

iv　前掲書　p.2

v　前掲書　p.1

vi　長尾　真（2001）．「わかる」とは何か．岩波新書713．

参考資料

アンケート調査

指導者の方へ

1. 歌唱等・器楽(含合奏)・鑑賞・創作などの割合（年間）についておたずねします。

＊１時間の授業のなかで、歌唱や器楽といった表現を含んでいることもあると思いますが、それも含んで、おおよその割合で結構です。(%の回答欄)

活動		割合
表現	歌唱など	%
	器楽（含合奏）	%
鑑賞		%
創作		%

2. 鑑賞の授業について、おたずねします。

（1）ねらいについて下の選択肢より選んで答えてください。

a. 題材や教材の理解を深めるため　b. 授業の雰囲気をよくするため

c. その他(　　)

（2）教材の選択方法について下の選択肢より選んで答えてください。

A. 教科書教材（参考教材も含む）について、該当するものに○印をお付けください。

1. 主に使う　2. 教科書教材以外も使う　3. 教科書教材はあまり使わない

4. その他

B. Aで2.あるいは3.に該当する方はその理由を、お書きください。

また、その場合の対象学年、代替教材名や題材名などを裏面にご記入ください。

（3）鑑賞している時の児童・生徒の様子はどのようですか？ 下の選択肢より選んで答えてください。

a. 集中してよく聴いている。　b. 楽しそうに聴いている。

c. あまり聴こうとしない。

d. その他　(　　)

（4）鑑賞の授業で工夫をしていることがありましたら、お書きください。

（例　視聴教材を用いるなど）

3. 鑑賞に限らず、普段、音楽の授業で大切にしていることをお書きください。

4. 学校の設備などについて、おたずねします。

A. 音楽室のAV機器について、現在、どのくらい充実していますか？

B. 特殊な楽器などがありましたら、楽器名をお書きください。

（和太鼓、琴、尺八、三味線、管楽器、弦楽器、打楽器、ギターなど）

C. 参考資料として学校や個人で保有されているものがあれば、具体的にお書きください。

(1)CD（指導書関連は除いて）

(2)VTR（指導書関連も含む）

(3)DVD（指導書関連も含む）

(4)楽譜など

5. 先生の音楽経験や得意とする楽器などがありましたら、お書きください。

6. 先生個人として、好きな音楽ジャンルがありましたら、お書きください。

7. 教師経験年数を校種別にお書きください。

小学校（　　）年、中学校（　　）年、高等学校（　　）年

8. 所属・氏名をお書きください。

所属学校名	お名前

ご協力いただきまして、ありがとうございました。